



仰星監査法人

誰も 主役 じゃない

プロフェッショナルの舞台で輝け!!

Gyosei
Recruiting
Guide
Book



真摯に議論して 本質をとらえる

成長を支える
多角的で実践的な
万全の研修プログラム

風通しが良く
和やかな雰囲気

自由闊達な
コミュニケーション風土

自然体で
いられる

自分らしい
キャリアを
築ける

多様な働き方を
支える制度

議論の積み重ねにより
新たな発見や視点を
得る

職員の成長に対して
「おせっかい」な社風

AI・DXの
積極的な活用

互いを高め
合う土壌

ビジネスパーソン
としての成長を促す
委員会制度

挑戦を通じて
成長できる

職員が職階関係なく
議論している

プロフェッショナルとしての 確かな歩みをサポートします。

プロフェッショナルである公認会計士は、
ステークホルダーの期待に応え、
監査意見を通じて社会に信頼を届ける存在です。
自ら考え、仲間と議論し、実務を通じて成長を重ねる。
その過程すべてが、プロフェッショナルへの歩みとなります。
あなたも、真のプロフェッショナルとして輝いてみませんか。
誰もが主役となる舞台でお待ちしています。

CONTENTS

- 06 特別対談 未来のプロフェッショナルへ
- 08 私が入所を決めた理由
- 10 プロフェッショナルへの歩み
自分にあった道でプロフェッショナルへ
プロフェッショナルとしてのキャリアアップを支える仕組み
- 24 先進的なAI・DXの取り組み
- 26 キャリアのサポート
一人ひとりの成長を組織として支える体制
研修制度
委員会
- 32 多様な働き方を支える制度
- 36 法人概要・入所後の待遇・事務所所在地
- 38 理事長からのメッセージ



特別対談

未来のプロフェッショナルへ

人材開発のトップと若手スタッフが、
仰星監査法人の目指すプロフェッショナルについて語りました。

目標を見つけることが大切

仰星監査法人の説明会や面接を受け、どのような印象
を持ちましたか？

小川：皆さん優しく、居心地の良い職場だと感じまし
た。しかも個性的な方が多い(笑)。この環境で会計士
として成長したいと思いました。

小出：どのような業務に興味がありますか？

小川：IPO業務です。企業の成長を支え、クライアント
と併走できる点に魅力を感じています。

小出：IPO業務はクライアントをリードし、指導する役
割が求められます。当然、知識や経験が必要ですが、
人に教えることで自分の理解も深まり、それが成長に
つながります。挑戦する価値のある分野ですね。

小川：IPO業務をするには、まず上場会社の監査経験
を積むべきでしょうか？

小出：まずは模範となる上場会社で監査経験を積み
たいですね。ただ、仰星監査法人では上場会社の監査
もIPO業務も同時並行で関わられます。仰星監査法人
の職員は、各々多くの監査チームに関与しています。

誰もが主役として 輝ける舞台があります

小出 修平
人事担当〈理事〉

複数の業界や企業の監査を経験でき、自分の目標を
見つけやすい環境です。

小川：私は4社の監査を担当していますが、色々な経験
ができそうでワクワクしています(笑)。

小出：色々な経験を積みながら知識を身につけてくだ
さい。いきなりプロフェッショナルにはなれないので、
「この先輩のようにになりたい!」と思える目標を見つけ
ることが大切です。

職階に関係なく 自然に会話が生まれる 雰囲気があります

小川 姫奈〈スタッフ〉
(2025年入所)

仰星監査法人の雰囲気はいかがですか？

小川：皆さん気さくで、とても和やかです。先日も小出
さんに気軽に声をかけていただきました。風通しの良
い職場だと実感しています。

小出：この風通しの良さは仰星監査法人のDNAで、プ
ロフェッショナルとしての仕事を円滑に進めるために必
要な組織風土です。こうした環境があるからこそ、活発
な議論が生まれ、監査品質の向上にもつながります。

小川：法人説明会のときから、仰星監査法人には職階



に関係なく自然に会話が生まれる雰囲気があると感
じていました。入所後もそのイメージは変わりません。

小出：お互いをプロフェッショナルとして尊重するから
こそ、オープンなコミュニケーションが生まれます。こ
の空気を感じ取ってもらえたなら嬉しいですね。

ニーズに応えることが

プロフェッショナル

将来、どのような会計士になりたいですか？

小川：常に人の気持ちに寄り添いたいと考えているの
で、クライアントやチームメンバーのニーズを的確に
捉え、それに応えられる会計士になりたいです。

小出：素晴らしい!相手のニーズを先読みし、最適な
対応をする。それを実践することが真のプロフェッ
ショナルです。

小川：はい、プロフェッショナルとして成長できるよ
う日々研鑽を積んでいきます!

最後に受験生にメッセージをお願いします!

小出：仰星監査法人には誰もが主役として活躍できる
舞台があります。当事者意識を持ち、皆でゴールを目指
す。これこそが、仰星監査法人の求めている姿です。

私が入所を決めた理由

Reason 01

▶ 佐藤 来実 (スタッフ)



活躍する女性の姿に背中を押された

私は、自分にあった環境で長く働けるかを重視して、法人選びを進めていました。なかでも、キャリアを築きながら働き続けられる環境であるかどうかは、私にとって大きな判断基準でした。仰星監査法人のことを初めて知ったのは、予備校の合同説明会に参加したときです。リクルーターの方とお話しした際、温かく親しみやすい雰囲気に惹かれました。その後いくつかのイベントに参加しましたが、特に印象に残っているのは女性限定で行われたイベントです。物腰が柔らかく、気さくなパートナーの方とお会いし、お話を伺う中で、仕事と私生活を大切にしながらいきいきと活躍されている姿に強く憧れを抱きました。「私もここで成長しながら、自分らしいキャリアを築いていきたい」と感じ、入所を決めました。入所した今でも、初めて仰星監査法人のブースを訪れた際に感じた印象は変わっていません。先輩方が日々気にかけて声をかけてくださり、困ったことがあればすぐに相談できる環境があります。周囲に支えていただきながら一歩ずつ成長できていることを実感しています。



Reason 02

▶ 久保川 龍馬 (スタッフ)



充実感を持って働いている将来の自分をイメージできた

就職活動では幅広く監査法人の説明会に参加しました。その中で仰星監査法人は、職員同士の距離の近さや、立場に関係なく会話が交わされている様子に魅力を感じました。仰星監査法人であれば、自分の考えを率直に発信しながら働けるのではないかと思います。法人主催のイベントで行われたクイズ企画では、スタッフの方がパートナーの方に冗談交じりにツッコミを入れる場面がありました。日常的な関係性の良さが垣間見えた瞬間でした。「合格後の自分がここで働いている姿」を具体的にイメージできるかどうかは、法人選びにおいて重要なポイントだと思います。その点で、仰星監査法人は自分の将来像を自然に描くことができました。立場を超えて意見や質問ができる安心感があり、成長していける環境だと感じたのが決め手になりました。



自分にあった道で プロフェッショナルへ

仰星監査法人では、あらかじめ決められたキャリアの型は設けていません。

成長スピードも、歩む道も、そして目指す姿も、一人ひとり異なるものだと考えているからです。

そして、その先にある姿も、一つではありません。

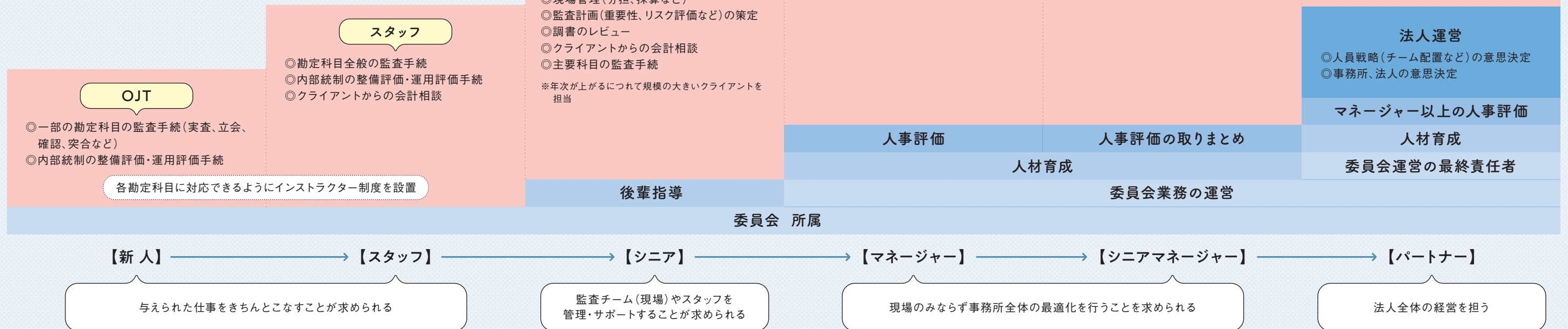
組織を牽引する立場を目指す道もあれば、専門性を深めていく道もあります。

それぞれの志向に応じて、自分らしいキャリアを描くことができます。

自分のペースで経験を重ねながら、

自分にあったプロフェッショナル像へと到達していく。

その選択と成長を、組織として支え続けます。



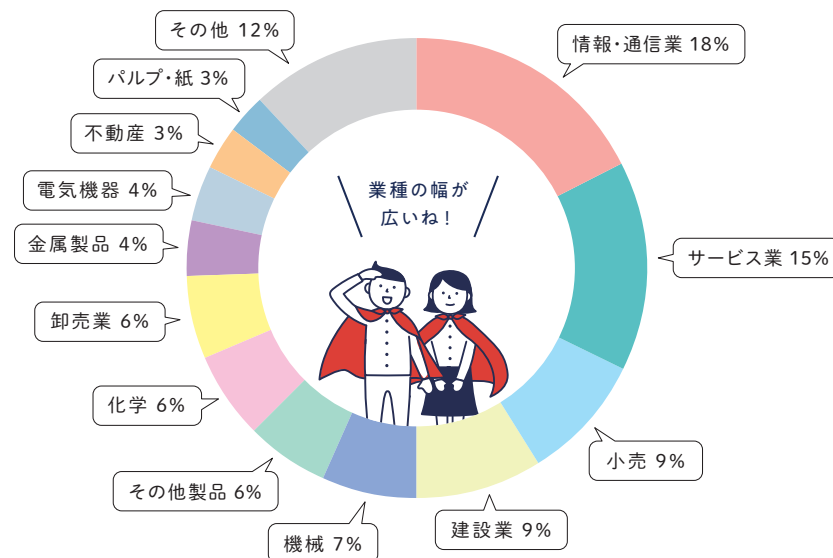
プロフェッショナルとしての キャリアアップを支える仕組み

幅広い業界・多様なサービスライン

クライアントは、プライム市場の上場企業からIPO準備企業まで多岐にわたります。業種も、情報・通信業、サービス業、小売、建設業など、幅広い領域に及びます。こうした多様な監査経験を通じて、一人ひとりが自分らしく成長できる環境が整っています。

クライアントの業種割合

※上場企業に限る ※2025年6月時点



上場会社の数

113社

※2025年6月時点

監査業界

第6位

万全の体制で
プロフェッショナルへの
歩みをサポートします



人材育成

伴走型の支援と体系的な教育を組み合わせ、組織として一人ひとりの確実な成長を包括的に支えています。

伴走型の支援



インストラクター制度

若手スタッフを事務所全体でフォローし、3年間で監査業務を一巡させ、インチャージを任せられる人材を育てる。



体系的な教育



研修制度

段階に応じて知識とスキルを体系的に習得するための教育プログラム。

▶ 詳しくはP26-29へ

委員会

委員会とは、監査業務の枠を超えた横断的な活動で、視野を広げビジネスパーソンとしての成長とキャリアアップを促進する、仰星監査法人独自の取り組みです。

業務推進系

- ☑ 上場会社等業務推進部
- ☑ 国際業務推進部
- ☑ パブリック業務推進部 など

運営サポート系

- ☑ 情報管理委員会
- ☑ クオリティサポート委員会
- ☑ 広報委員会
- ☑ 人材開発・研修委員会
- ☑ リクルート委員会
- ☑ 品質管理委員会 など

▶ 詳しくはP30-31へ

仰星監査法人の職員として、「プロフェッショナルとはどうあるべきか」を語っていただきました。

“プロフェッショナルとは” 責任を負うこと

安田 宏平(スタッフ) × 森 崇(パートナー)

Case
01

遠慮なく聞ける環境がある

分からないことは、

仕事を任せている

一人ひとりの適性を見ながら



責任と向き合いながら、 成長していく

安田さんはプロフェッショナルとはどういうものだとお考えですか？

安田：一言で言うと、「責任を負うこと」だと考えています。新人であってもベテランであっても、その年次なりの役割があり、与えられた仕事には責任が伴います。

森：そうですね。役割の大きさは違っても、それぞれの立場で責任を持つことは変わりません。私たちは、一人ひとりの適性を見ながら、その人が責任を持って取り組める仕事を任せています。

安田：自分の役割をきちんと認識し、その責任を全うすることがプロフェッショナルだと思います。



では、その責任感をどのように育てていくのでしょうか？

森：会計士はどちらかというと職人気質な人が多く、自分の技術は自分で磨いていくという側面があります。放っておくと「背中で学べ」のような状況になりがちです。

安田：ただ、仰星監査法人ではそうした雰囲気は感じません。皆さんとても親身に教えてくれます。

森：そうですね。私たちは意識してコミュニケーションを取ることを大切にしている、それが文化として根付いています。

安田：分からないことがあればどんどん聞いていい、という空気があります。

森：組織全体で、一人ひとりがプロフェッショナルとして業務に向き合えるよう支えている、そんな環境だと思います。

自分ならではの強みを持ちたい

安田さんが「責任」を意識するようになったきっかけは何ですか？

安田：入所1年目にインチャージの補佐を任されたときです。

森：通常は3年目くらいから任せるのですが、安田さんの適性を見て、早い段階で挑戦してもらいました。

安田：私に相談をするスタッフもいたため、自分はチームの中心メンバーであるという当事者意識が自然と芽生えました。それと同時にその責任の重さも実感しました。

森：すべての人に同じように役割を任せるわけではなく、一人ひとりに合わせて、対話しながら仕事を任せています。

安田：周りのサポートもあり、最後までやり切ることができました。そこで得られた経験は今でもとても役立っています。

安田さんはどのようなプロフェッショナルを目指していますか？

安田：自分ならではの強みを持ちたいと思っています。今はまだ模索中ですが、「安田といえばこれ」と言える強みを持ちたいです。

森：プロフェッショナルの会計士として活躍していくには、プラスアルファの強みがあるといいですね。専門知識でもいいですし、技術でも営業力でも構いません。

安田：その点、森さんはUSCPA（米国公認会計士）の試験にも合格されていて、国際業務で活躍されていますよね。

森：強みを持つことで、会計士としての可能性は大きく広がります。最初から決める必要はなく、業務の中で見つけて磨いていけばいいと思います。

安田：はい。自分ならではの強みを育てて、「この領域なら安田に頼もう!」と言っていただける存在を目指していきたいです。

“プロフェッショナルは” 変化の中で形づくられる

可児 ゆり (シニア) × 宮部 匡司 (マネージャー)

Case
02

プロフェッショナルとは

ありたい姿を目指し続けること

「質問しやすい人」

であることを大切に

役割が変わることで、 見える景色が変わる

可児さんはプロフェッショナルとはどういうものだとお考えですか？

可児：プロフェッショナルとは、「自分のありたい姿を目指し続けること」だと考えています。「ありたい姿」は、自分の置かれた状況や立場によって変わっていくものだと思います。

宮部：可児さんは現在シニアとしてインチャージを任されていますが、役割が変わることで見える景色も変わってきたということですね。

可児：はい。以前は割り振られた業務をこなすことが中心でしたが、インチャージになると、メンバーにタスクを割り振り、それぞれが時間内にやり切れるようサポートする立場へと業務が変わりました。

宮部：インチャージにはプロジェクト全体を把握し、業務を推進していく力が求められますが、可児さんはその役割をしっかりと担われていますね。

可児さんはインチャージになる際どのようなお気持ちでしたか？

可児：所内的な事情があり、急遽インチャージ業務を担当することになりました。クライアントに迷惑をかけるわけにはいかないので、「やるしかない」という気持ちで臨みました。

宮部：可児さんなら任せられるという判断でした。もちろん、組織としてもしっかりサポートしました。

可児：追加人員をアサインしていただくなど、チームとしてバックアップしてもらえたので、安心して業務に向き合うことができました。

コミュニケーションが、 成長を引き上げる

可児さんはどのようなときに成長を実感しますか？

可児：入所して6年目になりますが、後輩からの質問や相談に対して、的確に答えを示せたときには、自身の成長を実感します。

宮部：新人の頃は、先輩同士の会話についていけないことも多いですね。私も入所当時は、「先輩の会話をよく聞いて学ぶことが大切だ」と言われていました。

可児：インチャージになってからは、話しやすい環境づくりを意識しています。チームのメンバーだけでなく、クライアントに対しても同様です。

宮部：「質問しやすい人」であることは重要です。会計士にはそれぞれ得意・不得意な分野がありますが、それを補うのがコミュニケーションです。互いに補完し合うことで、組織として強くなっていくのだと思います。

可児：それが経営理念にある「最大ではなく最強を目指す」につながっているのだと感じています。

仰星監査法人の魅力はどこだと思いますか？

可児：一番の魅力は人だと思います。大手監査法人から転職してきた人や異業種出身の人など、様々なバックグラウンドを持つメンバーが集まっており、多様な考え方に触れることができます。メンバーが互いに尊重し合い、良い雰囲気の中で働ける点も大きな魅力です。

宮部：メンバー同士が意見を出し合いながら業務の質を高めています。そうしたコミュニケーションの積み重ねが、個々の成長にもつながっています。

可児：これから入所される方々にも、ぜひ仰星監査法人で、自分自身の目指すプロフェッショナル像を描きながら、成長していったほしいと思います。

“ 周囲を納得させる 説得力を持つこと ”

春田 岳亜 (パートナー)

Case
03

この仕事が好きだという思いが、
キャリアを支える

この仕事が好きだという思いが、
キャリアを支える

周囲を動かす

自ら決めて、自ら行動し、

継続的な自己研鑽を行う

プロフェッショナルとは、特定の分野における自身の専門的な知識と経験を活かして適切に判断できることだと考えます。また、決められたことをこなすだけでなく、「自ら決めて、自ら行動し、周囲を動かす」ことが求められます。クライアントの状況を深く理解し、「あの人が言うのであれば間違いない」と周囲を納得させるだけの説得力を持つことが重要です。

「周囲を動かす」ということは、当然大きな責任を伴います。会計士の仕事は、クライアントの決算に「お墨付き」を与えること。もしそこに誤りがあれば、相応のペナルティが課せられます。それだけ重要な役割を担っています。だからこそ、プロフェッショナルには「監査品質向上のためにもっと良い方法はないか」を常に追求する姿勢が求められます。そして、継続的な自己研鑽を怠らず、重い責任やプレッシャーの中でも働き続ける胆力が必要です。一方で、その重圧に押しつぶされないためには前向きなマインドも重要だと思います。

また、「かくあるべし」という自分なりの理想像を持ち続けることも、プロフェッショナルであり続けるための大切な要素です。そうした理想があるからこそ、日々の業務の中でも自分を律し、少しずつでも成長しようという意識を持ち続けることができます。

この仕事を好きなことが大切

この仕事を続ける上で何よりも大切なのは、仕事への興味と貪欲に知識を吸収し続ける姿勢です。経営者の目線を理解し、クライアントや業界に関する深い知見を持つことが、真のプロフェッショナルへの道だと考えます。そのよ

うな自己研鑽を続ける原動力は、結局のところ「この仕事が好きだ」という思いに尽きます。

趣味に没頭するように、仕事においても「この領域はとことん極めたい」という気持ちを持って取り組んでほしいと願っています。「この仕事が好き」という思いは、この先のキャリアを長く力強く支えてくれるはずです。

仰星監査法人はフラットな組織で、若手にも大きな裁量が与えられる環境です。自身で考え、行動することが求められるため責任も伴いますが、成長の機会が多くあります。また、メンバーは互いをプロフェッショナルとして認め合い、対等な立場で議論を交わせるため、難しい課題であったとしても皆で最適な解答を導き、共にゴールを目指すことができます。

やりたいことを見つける

仰星監査法人で働く人は真面目で穏やかな雰囲気を持った方が多く、それが法人全体の雰囲気を作り出しています。この環境は、個々がプロフェッショナルとして成長し、切磋琢磨する上で最適だと感じています。さらに、成長をサポートする制度も充実しており、やりたいことに挑戦できる環境が整っています。クライアントとの距離が近いため、頼られることも多く、自身がプロフェッショナルであることを実感しやすい職場です。ぜひ、仰星監査法人でああなたの「やりたいこと」を見つけ、プロフェッショナルとしての道を歩んでください。





財務諸表監査を支える
プロフェッショナルの領域

IT監査

財務諸表監査において不可欠なIT監査 仰星監査法人では、 IT専門家の育成も積極的に推進

昨今のITの進歩は目覚ましく、クライアントのDX化が進展するにつれて、監査上のリスクも多様化・複雑化しています。サイバー攻撃によるデータ改ざんリスクやシステムから生成されるデータの信頼性に関するリスクなど、新たなリスクへの対応が求められています。

会計監査は、企業の財務状況が適切に報告されているかを確認する一方、IT監査は、財務データを支えるITシステムの信頼性と安全性を評価します。IT分野における監査業務を担える人材の必要性がより一層高まってきており、仰星監査法人ではIT専門家の採用を積極的に進めています。また、財務諸表監査におけるIT監査に加え、クラウドサービスに関連する受託会社の内部統制に係る保証業務な



ども行っています。

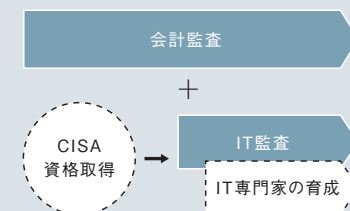
仰星監査法人では、IT専門家の育成のために、様々な研修やOJTを実施しています。また、「IT専門家シェアリング会議」などを定期的に行っています。IT専門家が公認会計士と同じ部署や現場で一緒に業務を行っていることも仰星監査法人の特徴の一つです。

IT専門家の資格を取得するための意欲を向上させるための制度として、CISA（公認情報システム監査人）やシステム監査技術者の合格者への報奨金制度などがあります。IT専門家の業務にご関心のある方の入所を心待ちにしています。



公家 隆博
〈マネージャー〉

キャリアフロー



最先端の領域で仕事をする

私は前職で会計監査を担当していましたが、ITに興味があり、CISA（公認情報システム監査人）の資格を取得し、IT監査の道へ進みました。仰星監査法人に入所してからは、会計監査とIT監査の両方に携わる機会が多く、現場での経験を積みながら、法人全体のIT監査力を強化する取り組みにも関わっています。仰星監査法人ではIT監査の人材育成に力を入れています。私はIT監査委員会のメンバーとして、研修の企画・運営やOJTを実施するほか法人全体としてのIT専門家育成プランの策定に関与しています。また、法人内でITに関する情報発信や資格取得の奨励などを積極的に行っています。ITの知識はIT専門家だけが持つものではなく、すべての監査人に求められる時代です。特に公認会計士にとって、IT監査の知識は今後さらに必須のスキルになっていくでしょう。

また、AIやRPAなどの技術が急速に進歩する中で、監査におけるITの役割も、それを取り巻く環境も日々変化しています。IT監査の領域は年々広がり、求められる知識やスキルも拡大しています。仰星監査法人でも、ITの最新技術を監査にどのように応用できるかを日々探りながら、実務に展開しています。こうした最先端の領域で仕事ができることは、非常にやりがいのある環境だと感じています。

会計監査に従事しながらIT監査のスキルも身につけたい方にとって、仰星監査法人は最適な環境です。専門的な知識がなくても、学ぶ意欲があれば大歓迎です。共に成長しながら、新しい監査の形を創り上げていきましょう。

Case
05

財務諸表監査を支える
プロフェッショナルの領域

コンサルティング業務

クライアントの課題解決を行う 仰星グループのコンサルティング会社



仰星コンサルティング株式会社は、監査業務で培ったノウハウを発展させる形で監査法人を母体とするコンサルティングファームとして、サービスを提供している仰星グループの中の会社です。業務内容は大きく「ファイナンス系」と「アカウンティング系」の2つに分かれ、それぞれの専門性を活かしながらクライアントを支援しています。

ファイナンス系の業務では、M&Aに伴う財務デューデリジェンス、企業価値を評価するバリュエーション、買収後の無形資産評価を行うPPA(Purchase Price Allocation)などを実施し、企業の投資判断をサポートします。アカウンティング系の業務では、会計基準の変更対応や複雑な会計処理の支援を行います。特に、近年注目されるリース会計基準の改定

など、企業が適切な会計処理を行うためのコンサルティングを提供しています。

仰星コンサルティングの強みは、「少数精鋭」のチーム体制にあります。個々のメンバーが様々な業務に携わることで、幅広いスキルを身につけることができます。そして、仰星監査法人との連携も強みの一つです。独立性の関係で仰星監査法人では対応できないコンサルティング業務を補完する役割を持ち、企業の会計・財務の専門家としてクライアントの意思決定を支援しています。

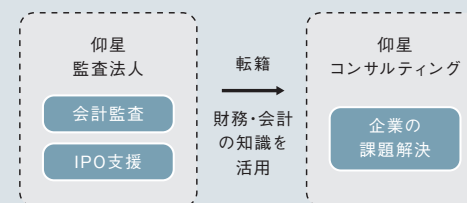
会計士としての知識を最大限に発揮しながら、より企業に近い立場で課題解決に取り組みたい方にとって、仰星コンサルティングは最適な環境です。



仰星コンサルティング株式会社

角屋 尚紀
(マネージャー)

キャリアフロー

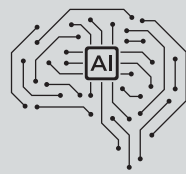


クライアントと同じ方向を向く

私はもともと仰星監査法人に所属し、IPO支援を中心に監査業務を担当していましたが、よりクライアントに寄り添いながら、多様な課題解決に関わりたいと考え、仰星コンサルティングに転籍しました。監査は財務報告に意見を表明する役割ですが、コンサルティングではクライアントの未来を共に考え、成長を支援する立場となります。その違いが、私にとって非常に魅力的でした。

仰星コンサルティングの特徴の一つは、少数精鋭のチーム体制です。大手のコンサルティングファームでは特定の業務に特化するケースが多いですが、当社では、ファイナンス領域から、会計基準の改正対応などのアカウンティング領域まで、幅広い業務を経験できます。私自身、監査法人時代には関わる機会の少なかったM&A関連業務に取り組みながら、日々知見を広げています。

監査では「批判的な視点」でチェックする立場でしたが、コンサルティングではクライアントと同じ方向を向き、「どうすれば最適な解決策を導き出せるか」を考えます。このスタンスの違いは、仕事のやりがいにも直結しています。特にM&Aの案件では、クライアントの成長戦略や意思決定に深く関わることができ、非常にダイナミックな経験を積めると感じています。監査だけでなく、よりクライアントに近い立場で会計・財務の知識を活かしたい方、M&Aやファイナンス領域に興味がある方にとって、仰星コンサルティングは理想的な環境だと思います。共に学び、成長しながら、クライアントの未来を支えていきましょう。



COLUMN

AI・DXで進化する、 仰星監査法人の次世代の監査

テクノロジーで実現する、 監査品質の高度化

仰星監査法人では、AI・DXを単なる業務効率化のためのツールとは捉えていません。目指しているのは、会計士がより本質的な業務に集中できる環境を整えることです。この取り組みは法人の成長戦略の重要な柱として位置付けられており、AI・DXの推進を通じて監査品質のさらなる向上を目指しています。

その実現に向けて、クライアントとの接点となる「デジタルフロント」と、法人内部の業務基盤を整える「デジタル

バック」、その両面からデジタル化を進めています。AWSやGoogle Workspaceなどのクラウドサービスを活用し、法人全体で利用できるデジタル基盤を整備しました。現在はその基盤の上でAI活用やデータ戦略を推進し、監査業務の高度化を進めています。

3つのDXツールが支える 監査基盤

その中核となるのが、現在進行している3つのプロジェクトです。複数のSaaSやクラウドサービスのデータを統合



し、業務データを横断的に活用する基盤システム「S-CATS」。財務データを分析して不正会計リスクを検知するAIモデル「CatchLightF」。そして、企業情報や

業界情報をもとに監査調書のベースを作成する生成AIアプリ「Nova-i」。これら3つのツールが、仰星監査法人のAI・DX推進を支える中核となっています。

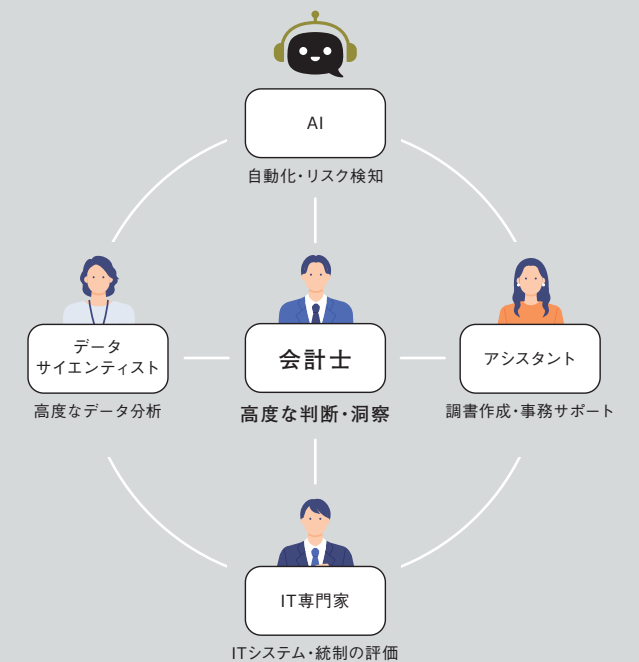
GeminiやNotebookLMなどの外部サービスも、高度なセキュリティ環境のもと活用しています。仰星監査法人はIT投資とデジタル人材の育成を重視しています。個人の作業効率にとどまらず、法人全体で知識やノウハウを蓄積し、活用できる状態をつくることで、「デジタルに強い会計士」という唯一無二のキャリアを築いてもらいたいです。

AIと分業が切り拓く、 これからの監査体制

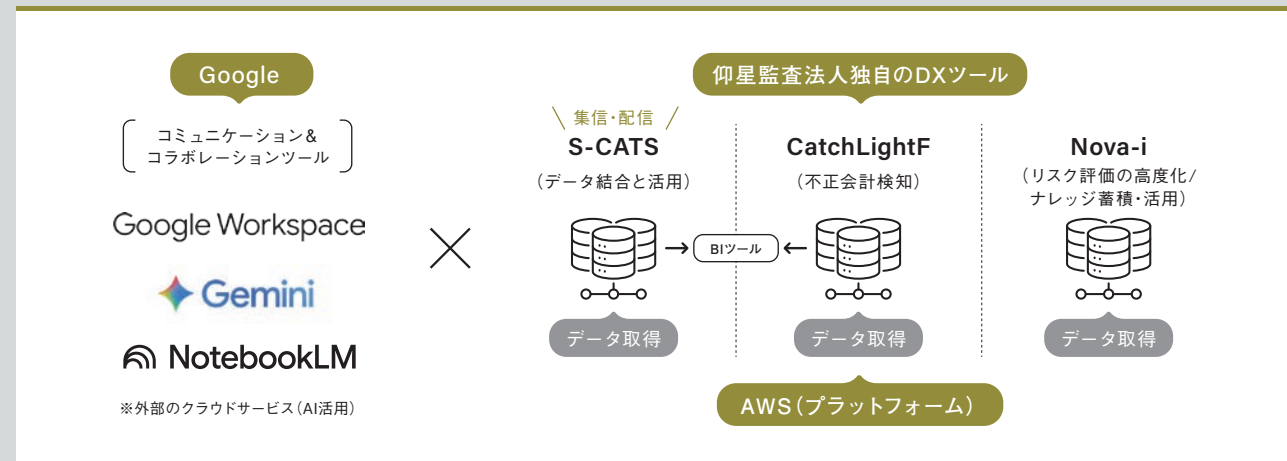
AIの活用により、これまで会計士が担ってきた情報収集や整理、調書作成の下準備といった業務は自動化・省力化されつつあります。こうした変化は、監査チームのあり方にも影響を与えています。今後の監査チームは、会計士に加えてアシスタントやIT専門家、データサイエンス人材など

が連携する分業体制へと進化していきます。会計士の役割は、クライアントとの「対話」、そして高度な専門知識を要する「判断」へとシフトし、真の専門業務に集中できるようになります。仰星監査法人は、社会や情報技術の変化を的確に捉えながら、次世代の監査体制をいち早く構築しています。最先端のテクノロジーに触れ、多様なプロフェッショナルから刺激を受ける環境は、皆さんの知的好奇心を満たし、キャリアの可能性を広げてくれるはずです。

次世代の監査分業モデル



仰星監査法人におけるAI・DX基盤の全体像





キャリアのサポート

Career Support

Part-1

一人ひとりの成長を 組織として支える体制

仰星監査法人では、「支援」「経験」「学び」を組み合わせながら、一人ひとりの成長を組織として支える体制を整えています。

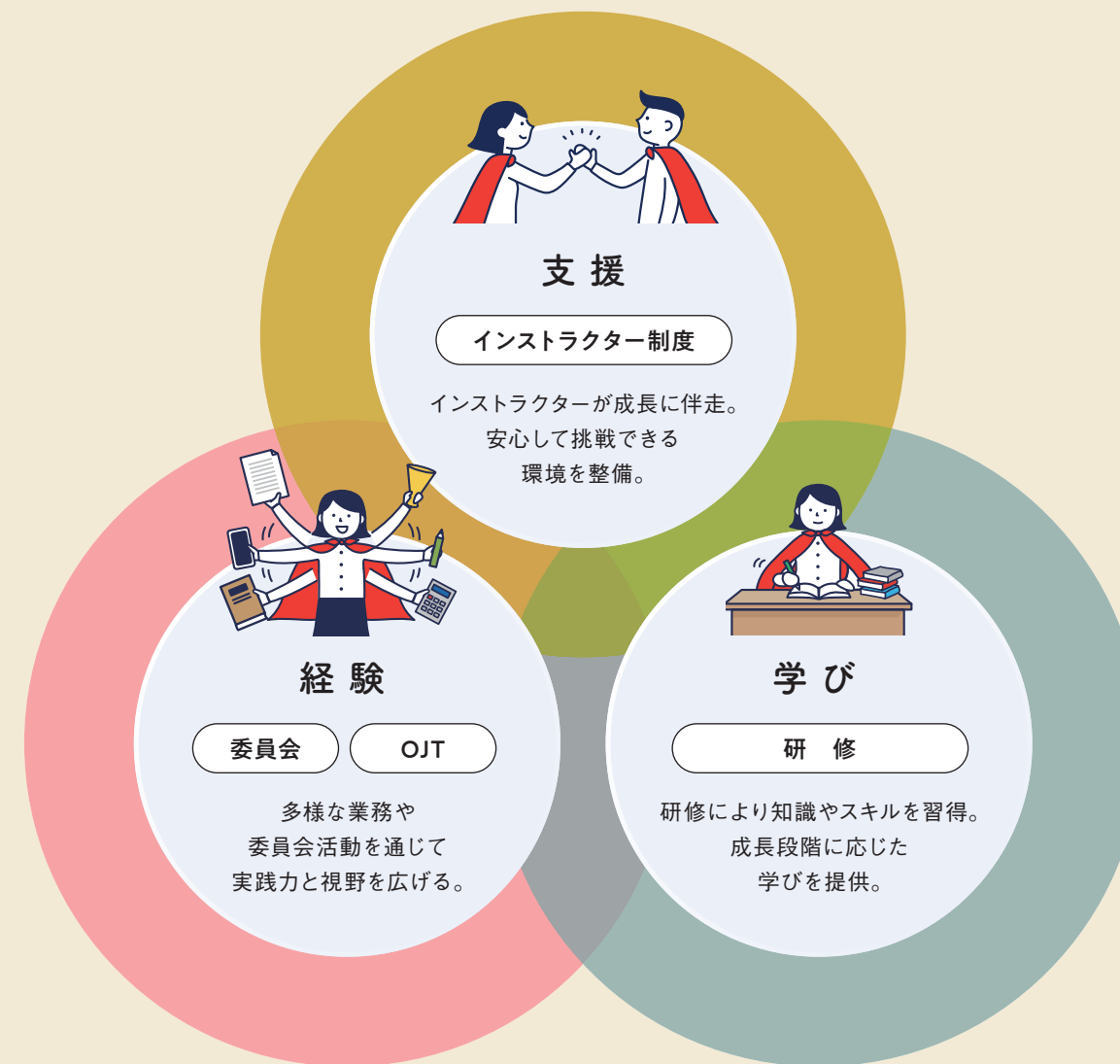
日々の業務を通じて経験を積む一方で、体系的に知識やスキルを習得できる研修制度を用意し、段階に応じた学びを継続的に提供しています。さらに、インストラクターが伴走し、業務の進め方や判断に迷ったときも、相談しながら解決できる環境があります。

また、監査業務にとどまらず、法人横断で取り組む委員会活動も行われています。こうした場を通じて、専門領域を超えた視点やビジネスパーソンとしての力を養うことができます。

このように、「支援」「経験」「学び」が一体となった仕組みによって、安心して挑戦し、着実に力を伸ばしていくことができます。仰星監査法人は、一人ひとりの成長に向き合い、長期的なキャリア形成を支え続ける環境を提供しています。

インストラクター制度とは

若手スタッフとインストラクター（原則マネージャーやシニアマネージャー）を1:1で割り当て、インチャージを任せられるよう若手スタッフの能力向上をサポートする仕組みです。3ヶ月に1度の面談を通じて、会計上・監査上の判断で分からなかったことについての相談に乗るだけでなく、若手スタッフが自分自身の目指すプロフェッショナル像に近づくための課題の提示も行います。





キャリアのサポート

Career Support

Part-2

研修制度

成長をサポートする 万全のプログラムを提供

仰星監査法人では、プロフェッショナルとして必要な専門性の向上を目的に、様々な研修プログラムを構築。研修の場を通じて、監査チームの一員として必要なコミュニケーション能力も養います。



研修プログラム



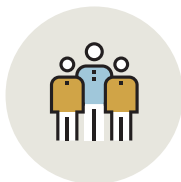
① 定例研修

スタッフからパートナーまでのすべての階層が参加する集合研修です。法人メンバー全員に参加を求める必須研修に加えて、事務所毎に独自に企画した専門的な研修が提供されます。



② 階層別研修

役職に応じて、必要とされる知識やスキルを身につける研修です。特にスタッフやシニアでは、ディスカッションやケーススタディを通じて、監査や会計を中心とした能力を開発していきます。



③ 新人研修

新たなキャリアのスタートに際して安心して業務に取り組めるよう万全のサポート体制を整えています。業務に必要なPCスキルや監査手続の初歩など様々なプログラムが用意されています。



研修概要

	研修内容	研修時間 (スタッフ J1)	研修時間 (スタッフ J2以降)
ビジネス スキル研修	新人研修では社会人としての 基礎から学ぶ 具体的な研修の一例 ・ビジネスマナーの実践(新人研修) ・情報セキュリティ研修	28時間	10時間
監査・会計 スキル研修	各年次で担当する 機会の多い事項について学ぶ 具体的な研修の一例 ・現金・預金(新人研修) ・売上高・売掛金	28時間	16時間
監査・実務 スキル研修	現場力の向上などについて学ぶ 具体的な研修の一例 ・リスクアプローチ巡(新人研修) ・IT監査・DX	57時間	47時間
税務スキル 研修	毎年の税制改正の 大綱などについて学ぶ 具体的な研修の一例 ・20XX年度税制改正大綱の解説	2時間	2時間



キャリアのサポート

Career Support

Part-3

委員会

自分で選んで 経験したいことに挑戦する

委員会とは、監査業務の枠を超えた横断的な活動で、ビジネスパーソンとしての成長を促進する仰星監査法人独自の取り組みです。「業務推進系」と「運営サポート系」の2つがあり、自由に参加できます。

① 業務推進系

各分野での営業活動や、クライアント向けのサービスを提供している委員会で、より専門的な業務に関与する機会を得られます。

上場会社等業務推進部、国際業務推進部、パブリック業務推進部 など



② 運営サポート系

会計及び監査の領域以外も、仰星監査法人では会計士が業務を担当しています。様々な業務経験を通じて成長できます。

情報管理委員会、クオリティサポート委員会、広報委員会、人材開発・研修委員会、リクルート委員会、品質管理委員会 など



人材開発・研修委員会



植野 功三

〈シニアマネージャー〉

やりたいことを、 やらせてくれる

人材開発・研修委員会では法人内の研修に関する企画・運営を行っています。スタッフ時代に新人がすべき業務内容やその手順がまとまっておらず苦労したので、「1年目に行う業務をまとめた研修を行いたい」と提案したところ即採用となり、研修資料を作成し、新人研修で講師を担当しました。私が就職活動をしていた時に重視していたのは「やりたいことをやらせてくれる法人に入りたい」でしたので、素直に嬉しかったです(笑)。

上場会社等業務推進部



末永 直之

〈シニアマネージャー〉

仰星監査法人の価値観と 組織文化をアピール

上場会社等業務推進部とは上場会社の監査業務の推進を図る委員会です。その業務として、初対面の会社役員に対して仰星監査法人のことを紹介するという機会があります。ただ紙面の法人案内を読むだけでなく、自分の言葉でどれだけ相手に理解してもらえるかを意識して取り組んでいます。今後のビジネスパートナーとして選んでもらえるよう、仰星監査法人がこういった価値観を大切に、どのような組織文化の法人であるのかを説明するように心がけています。



多様な働き方を支える制度

Systems That Support Work Styles



▶ 鬼頭 功一郎〈パートナー〉

選択休暇制度

個人のスキルアップを 組織の成長にフィードバック

監査業務を主軸に会計士としてのキャリアを重ねていますが、以前より税務業務にも強い関心がありました。そこで、何ごとともチャレンジだと考え、思い切って選択休暇制度を利用して、入所6年目の2016年から仰星監査法人の監査業務と並行して個人で税務業務を行っています。監査業務と税務業務を並行して行うことには、様々なメリットがあると実感しています。監査業務の対象となるの



はほとんどが大企業ですが、税務業務の場合、関わる企業がぐんと増えます。中小企業がクライアントになることが多く、企業の成長のために尽力するなど、クライアントと同じ方向を向いて業務を行うことができます。独立性が求められる監査業務とは違った新しい視点で企業と接することができ、会計士としての監査業務にも深みが生まれたと思います。

また、税務業務は個人事業なので、備品の購入から事業運営まで、すべて自分一人で行わなければなりません。そして、あらゆるリスクは自分一人で負うことになります。個人事業をやってみて初めて、自分がいかに組織に守られていたかに気づくことができ、組織のありがたさを再認識するきっかけとなりました。

選択休暇制度は個人のスキルアップや多様な働き方を支える重要な制度の一つです。「最大ではなく、最強を目指す」仰星監査法人ならではの制度で、各人がそれぞれ「強い会計士」となることをサポートし、結果として組織の成

長へとフィードバックされることを目的としています。今後も制度を活用し「最強を目指す」ことに貢献していきたいと考えています。



多様な働き方を支える制度



選択休暇制度とは

シニアスタッフ以上の公認会計士であれば、年間の所定労働時間の5%から25%までの間で、選択休暇を取得できます。取得理由は個人の自由に任されていますが、休暇期間内で獲得した知見や知識により会計士としてのレベル向上を実現し、仰星監査法人の監査業務に還元されることを目的としています。個人の意志や多様性を大切にする仰星監査法人ならではの制度です。



多様な働き方を支える制度

Systems That Support Work Styles

キャリア支援制度など

キャリア支援制度

在宅勤務

通勤の負担が減り、プライベートな時間を確保できます。^{※1}

^{※1}: 条件有

複線型勤務

ライフステージやキャリアプランの変化に合わせて、短時間勤務や選択休暇など柔軟な働き方を支援する制度があります。

各種費用負担

- ・日本公認会計士協会及び関連団体が主催するセミナー・研修会参加費用
- ・会計士協会入会金
- ・実務補習所入会金・入所料
- ・実務補習所宿泊研修参加料
- ・公認会計士登録費用
- ・公認会計士協会・各地域会年会費
- ・その他専門的能力を向上させるためのセミナー・研修会参加費用
- ・修了考査受験時の専門学校費用(上限有)
- ・修了考査受験料(1回)
- ・その他法人業務に関連する公的資格^{※2}の取得費用補助、専門学校授業料、通信教育費など

^{※2}: 入所前に保持している資格は対象外

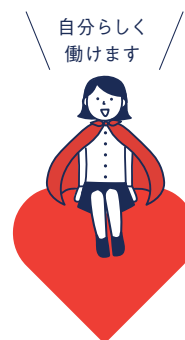
その他特別休暇

特別休暇

- 規程に基づく日数の特別休暇になります。〈有給休暇〉
- ・慶事(結婚) ・配偶者の出産 ・弔事
 - ・修了考査試験休暇

報奨金制度

- ・情報セキュリティマネジメント
- ・システム監査技術者
- ・公認情報システム監査人
- ・情報処理安全確保支援士
- ・IFRS検定(国際会計基準検定)
- ・TOEIC
- ・サステナビリティ・オフィサーなど



出産・育児・介護の支援制度

出産・育児支援制度

妊産婦の勤務について

妊娠中または産後1年以内の女性職員が希望した場合、時間外勤務、深夜勤務、休日勤務を免除されます。妊娠中の女性職員が希望した場合、所定勤務時間を6時間とすることができます。

産前産後休暇

産前6週間前から取得することが可能で、産後は8週間を経過するまで就業させることはありません。

出生時育児休業

子の出生後8週間以内に4週間まで2回に分割して取得可能です。

育児休業

子供の1歳の誕生日まで2回に分割して取得可能。また状況に応じて、子供が3歳に達するまでの延長が認められています。

育児短時間勤務^{※3}

所定勤務時間を、希望により5時間までに短縮可能です。

育児時差出勤^{※3}

1日の所定労働時間は7時間のまま、始業及び終業の時刻を繰り上げ又は繰り下げることができます。

所定外労働の免除^{※3}

育児・介護のため申請した場合、所定労働時間(7時間)を超えて労働させることはありません。

時間外労働の制限^{※3}

育児・介護のため申請した場合、1ヶ月24時間を超えて時間外労働をさせることはありません。

深夜残業の制限^{※3}

育児・介護のため申請した場合、午後10時から午前5時までの間に労働させることはありません。

子の看護等休暇^{※4}

子供が1人の場合は年5日、2人以上の場合は年10日が取得可能です。〈有給休暇〉
子供の看護以外にも、以下のような場合に利用できます。

- ・子供の予防接種・健康診断
- ・感染症による休園・学級閉鎖 ・入園式・卒園式

^{※3}: 産後～中学校始期まで
^{※4}: 小学4年生始期まで

介護支援制度

介護休暇

対象家族が1人の場合は年5日、2人以上の場合は年10日取得可能です。〈有給休暇〉

介護休業

対象家族1人につき、原則として通算93日間の範囲内で取得可能です。

法人概要

名称：仰星監査法人(英文名称:GYOSEI & CO.)

理事長：中川 隆之

設立：1990年9月(平成2年)

人員構成：428名(公認会計士282名・会計士試験合格者81名・その他65名)※2025年6月末時点

事務所：東京・大阪・名古屋・北陸・福岡・広島・札幌

国際組織：Nexia Internationalに加盟

被監査会社数：277社(金商法・会社法監査115社《うち、上場会社113社》、その他監査162社)※2025年6月末時点

入所後の待遇

給与：当法人規程による
(初年度月額350,000円[前年実績]、固定残業代なし、賞与／残業手当別途支給)

賞与：年2回(6月、12月)、決算賞与制度あり

手当：時間外勤務手当、休日勤務手当、深夜勤務手当、通勤手当、出張日当、テレワーク手当など

勤務時間：9:30～17:30(休憩12:00～13:00)

休日・休暇：年間休日125日[前年実績]、土日祝祭日、年末年始、夏期、年次有給(時間単位有給含む)、
創立記念日、慶弔、配偶者出産、産前産後、育児、子の看護、介護、修了考査試験休暇
(年間カレンダーによる出勤日や休日あり)

社会保険：社会保険完備(健康、厚生、雇用、労災)、公認会計士企業年金基金

実務補習：費用全額法人負担、日程配慮

その他：実務補習所費用及び、公認会計士協会登録費用・年会費を全額法人負担、
修了考査受験時の専門学校費用負担(上限あり)、
クラブ活動(テニス・フットサル・ゴルフ・スキー・野球・軽音部など)

詳細は採用ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.gyosei-grp.or.jp/recruit/>

事務所所在地

本部 東京事務所

〒102-0081 東京都千代田区四番町6 東急番町ビル11階

Tel.03-5211-7878

大阪事務所

〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町二丁目3番13号

大阪国際ビルディング12階

Tel.06-6265-8461

名古屋事務所

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅四丁目4番10号

名古屋クロスコートタワー12階

Tel.052-581-1175

北陸オフィス

〒920-0919 石川県金沢市南町5番20号

甲南アセット金沢百万石ビル6階

Tel.076-221-8788

福岡オフィス

〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目5番21号

博多プラザビル7階

Tel.092-409-0971

広島オフィス

〒732-0052 広島県広島市東区光町一丁目12番16号

広島ビル3階

Tel.082-258-5681

札幌オフィス

〒060-0061 北海道札幌市中央区南一条西五丁目14番地1号

札幌証券取引所ビル1階

Tel.011-232-2777



理事長からのメッセージ



監査法人は独立した立場から財務諸表に対して信頼性を付与することにより、資本市場の信頼性を確保し経済社会のインフラを支えています。公認会計士という資格を有しているからこそ、社会から信頼され独占的に監査を行うことが許されています。

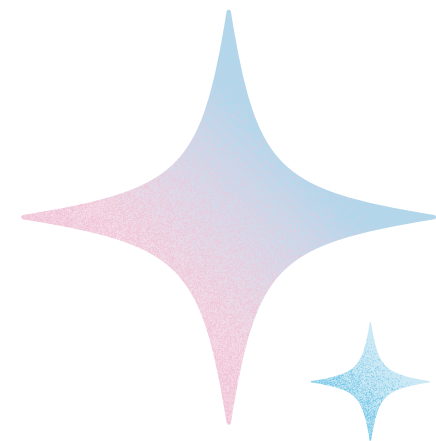
社会から信頼されるためには専門的知識の習得はもちろんのこと、人間的にも成長していくことが必要です。そのため、仰星監査法人では、Missionとして「公正と誠実を貫く」を掲げています。また、役職員の行動指針(Our Action)として「独立不羈」「信頼」「情熱」「人間性の向上」「貢献意欲」「高度な品質」「コミュニケーション風土」「後進の育成」を掲げています。皆さんは公認会計士になって無限に広がるステージでの活躍を夢見ていると思いますが、たゆまぬ努力を積み重ねることで、困難なことにぶつかりながら誠実に仕事を行い、社会に貢献し他者から感謝されるといった有意義な仕事人生を過ごすことができるのだと思います。

そのためには先に掲げたMissionやOur Actionが重要だと仰星監査法人は考えています。個々人がこのようなプロフェッショナリズムの実践や責任のある“独立”した存在として役割を果たし、組織としては、才能豊かな個々人の総和以上の力を生むために開放的で自由闊達なコミュニケーション風土の醸成が重要だと考えています。

仰星監査法人は、役職員の一人ひとりを尊重し、監査法人という組織の目標の中で個々人が楽しく仕事に取り組み、社会に貢献してほしいと願っています。我々が重視しているプロフェッショナリズムや当事者意識を発揮していただき、有意義な仕事人生をおくってください。

ぜひ、仰星監査法人というプロフェッショナルの舞台で輝いてください！誰もが主役になれる仰星監査法人でお待ちしております！

理事長 中川 隆之



プロフェッショナルの舞台で
一緒に輝こう！





／ コーポレート
／ サイト



／ リクルート
／ サイト



GYOSEI & CO.